

行革タウンミーティング 意見・提言を紹介します

市では、5月18日から6月5日にかけて、市内6会場で約600人の参加を得て、行革タウンミーティングを開催しました。これは、市の厳しい財政状況を市民の皆さんに知っていただき、行政改革について意見交換を行い、行政改革の必要性やその推進について理解や協力をいただくために実施したものです。今回は、各会場でいただいた主な意見・提言を要約して紹介します。

なお、詳細な発言要旨は市ホームページに掲載していますのでご覧ください。



▲多くの意見が出された行革タウンミーティング
(6月5日、日高農村環境改善センター)

小さくて効率的・

効果的な組織

●市職員削減になぜ10年かかるのか。5年でできないのか。

●類似の市に合わせてもため。本当に必要な人数は何人なのかを考えるべきである。

●類似の市は人口だけでなく面積も勘案しているのか。

●職員削減計画があるが、国体が終われば職員があくのではないか。

●総合支所の空きスペースの利活用を考えるべきである。

その他

●資料に家計の例えがあるが、年間500万円の所得家庭は普通ありえないので、身近な数字にしてほしい。

●合併後、特例債がどのような形で使われ、いくら入ってきているのか知りたい。

●行革が進むと中央は良くなくなり、末端は悪くなるので配慮すべきである。

●どういう市になるのか、行革委員会の活躍にも期待している。

《問合せ》行革推進室

財政の健全化

●民の負担が増大するが、補助金などはないのか。

●税や使用料の滞納は担当部署と連携が重要ではないか。

●不要不急のものがあれば売却して財政の中に繰り入れるべきである。

●合併して財政が苦しくなったとあるが、合併効果の見通しを示すべきである。

●自主財源を伸ばす方策などの前向きな対策はないのか。

●コウノトリ人気で収入を増やしてほしい。

市民と行政との協働

●イベントは住民が主体的に取組み、行政が手助けするのが本来ではないか。

●行政と市民が情報を共有し、積極的な情報公開を努めていただきたい。

官から民へ

●民間の発想に立ち、官から民への移行は当然である。

●農業共済事業は民間か第3セクターに移管してはどうか。

補助金改革

●商工会も合併の話が出ており、補助金も減るのを覚悟している。このようなタウンミーティングの機会を持たれたことに敬意を表する。

●地上デジタルへの移行に市